

第34回報農会シンポジウム

『植物保護ハイビジョン—2019』のご案内

——わが国農業の持続性と植物保護〈国内・世界の趨勢に挑む技術とシステム〉——

趣 旨：不安要素が山積の日本の農業であるが、いかなる状況になろうとも国内農業の持続は国の存続にかかわる大前提である。平時にはなかなか思い至らないが、精神的支柱、食糧安全保障、さらに環境と資源の維持・保全に国内農業の果たす役割の大きさを改めて考えたい。担い手不足、コスト低減、国際競争など日本の農業をめぐる困難な課題は、植物保護においてもこれらの克服なしに前進はない。前回のシンポジウムでは、困難な状況にありながらも未来に希望の光を灯すユニークな成果を取り上げた。今回はさらに一歩進めて、国内・世界の趨勢に対応しながら植物保護が日本農業の持続に寄与するための方策を、技術とシステムの両面から探してみたい。

主 催：公益財団法人 報 農 会

協 賛：日本応用動物昆虫学会、日本植物病理学会、日本農薬学会、一般社団法人日本雑草学会

日 時：令和元年9月25日(水) 10:00~16:30

場 所：「北とぴあ」つつじホール(東京都北区王子1-11-1)

TEL 03-5390-1100(会場への連絡は出来ません)

JR 京浜東北線：王子駅北口より徒歩2分、東京メトロ南北線：王子駅5番出口直結

開 会：10:00~10:10	挨拶	理事長 田付 貞 洋
講 演：10:10~11:00	農薬取締法の改正について	農林水産省農薬対策室 石岡 知 洋
11:00~11:50	ドローンを用いた防除の展望	DJI JAPAN(株) 岡田 善 樹
11:50~13:10	昼食・休憩	
13:10~14:00	生物的防除を基幹としたIPMへの移行とその意義	宮崎大学農学部 大野 和 朗
14:00~15:10	GAPを利用した茶の経営改善の取り組み	埼玉県茶業研究所 小川 英 之 (有)東阜狭山茶 横田園 横田 泰 宏
15:30~16:30	総合討論	

参加費：一般 2,000円 学生 事前申込み無料、当日 1,000円

申込み：参加をご希望の方は、9月17日までに下記連絡先までEメールまたはFAXで所属・連絡先と氏名をお知らせ下さい。当日、参加費と引き換えにテキストをお渡し致します。なお、当日の参加も可能です。

連絡先：公益財団法人 報農会 事務局

〒187-0003 東京都小平市花小金井南町1-12-11 BLOSSOM みさと

TEL/FAX 042-452-7773

E-mail : khono511@car.ocn.ne.jp